

環境報告書ガイドライン ～持続可能な社会を目指して～ (仮称)

目次 (中間報告版 全体構成案)

(まえがき)

ガイドラインの改訂に当たって

1. ガイドライン改訂の趣旨
2. ガイドラインの対象
4. 創意工夫の勧め～特色ある環境報告書の作成を
5. 既存ガイドライン等との関係
6. 公表媒体による留意点(新規)
7. トピックス・特集を記載する場合の留意点(新規)

第1章 環境報告書とは何か

1. 環境報告書の定義
2. 環境報告書の基本的機能
3. 環境報告書の作り方及び活用の方法

環境報告書の作成にプロセスについて説明する。事業者の業種、事業規模、活動領域等の特性から、利害関係者を特定し、利害関係者のニーズに応じた報告事項を判断することを説明する。ステークホルダー別の留意点について説明する。

環境報告書の活用方法について事例を挙げて説明する。

4. 環境報告書の一般的報告原則
(重要性の考え方については、「目的適合性」を補強する)
5. 報告に当たっての基本的要件
 - (1) 対象組織の明確化(いわゆるバウンダリー問題)
 - (2) 対象期間の明確化
 - (3) 対象分野の明確化

6. 環境報告書の信頼性向上のための方策

第三者レビュー、内部管理の徹底等、信頼性を確保するための方策について説明する。配慮法に従い、少なくとも「環境報告書の信頼性を高めるための自己評価の手引(試行版)」に従って、自己評価を実施することが望ましいことを説明する。

第2章 環境報告書の記載項目の枠組み

1. 記載事項と情報（指標を含む）の全体構造

- (1) 「基本的項目」(基本情報：B I I)
- (2) 「環境マネジメントの状況」を表わす情報
 - ・環境マネジメント指標（M P I）を含む
- (3) 「事業活動に伴う環境負荷及びその低減に向けた取組の状況」を表わす情報
 - ・オペレーション指標（O P I）を含む
- (4) 「環境配慮と経営との関連状況」を表わす情報
 - ・環境効率指標（E E I）を含む
- (5) 「社会的取組の状況」を表す情報
 - ・社会パフォーマンス指標（S P I）を含む

【指標に着目した全体構造】

(1) B I I (基本情報)	
E P I (環境パフォーマンス指標)	(2) M P I (環境マネジメント指標) (3) O P I (オペレーション指標) (4) E E I (環境効率指標)
(5) S P I (社会パフォーマンス指標)	

2. 環境パフォーマンス指標（E P I）の構成

資料3 「新E P Iの骨子案」参照

第 3 章 個別の情報・指標の要点 [は現行ガイドラインの記載項目番号](#)

(それぞれの項目について、具体的な情報・指標と解説、用語の定義、事例、Q & A 等)

1. 基本的項目 (基本情報: B I I)

BI-1: 経営責任者の緒言 (総括及び誓約を含む)

BI-2: 報告に当たっての基本的要件 (対象組織・期間・分野)

BI-3: 事業の概況 (経営指標)

BI-4: 比較可能なサマリー (新規)

事業の概況 (BI-3 参照) 環境に関する規制の遵守状況 (MP-3 参照) 温室効果ガス等の大気への排出量 (OP-6 参照) 廃棄物等総排出量 (OP-8 参照) 及び事業活動によって重要とも割れる項目について、サマリーとしてまとめ見開き程度の内容で、図表を活用してわかりやすく、簡潔に記載する。

(事例: 表)

2. 「環境マネジメントの状況」を表わす情報・指標 (環境マネジメント指標: M P I)

MP-1: 報告範囲と全体カバー率 (新規)

MP-2: 環境マネジメントシステムの状況

MP-2-1: 事業活動における環境配慮の方針

MP-2-2: 環境マネジメントの状況

MP-3: 環境に関する規制の遵守状況

MP-4: 環境会計情報の総括

MP-5: 環境配慮の金融情報 (新規)

MP-6: 環境・社会に配慮したサプライチェーンマネジメント等の状況

MP-7: グリーン購入・調達状況及びその推進方策 23

MP-8: 環境に配慮した新技術等の研究開発の状況

MP-9: 輸送に係る環境負荷の状況及びその低減対策 22

MP-10: 事業活動における環境配慮の取組に関する目標、計画及び実績等の総括

MP-11: 生物多様性への対応 (新規)

MP-12: 環境コミュニケーションの状況

MP-13: 環境に関する社会貢献活動の状況

MP-14: その他

(非製造業の事業活動から生み出される環境配慮型の無形のサービス・役務等)

(その他、必要に応じ)

3. 「事業活動に伴う環境負荷及びその低減に向けた取組の状況」を表わす情報・指標

(オペレーション指標：OPI)

現行ガイドラインの「その他のサブ指標」を関連する情報・指標に統合する。

OP-1：事業活動のマテリアルバランス
(インプット、内部循環、アウトプット)

(インプット)

OP-2：総エネルギー投入量及びその低減対策

OP-2-1：環境配慮分の内訳

OP-3：総物質投入量及びその低減対策

OP-3-1：環境配慮分の内訳

OP-4：水資源投入量及びその低減対策

OP-4-1：環境配慮分の内訳

(内部循環)

OP- ：自家発電量等（新規）

OP- ：循環利用物質等

(事業所内部で再使用・再生利用・熱回収された循環資源の量)

OP- ：雨水、中水、再利用水量（新規）

(アウトプット)

(製品)

OP-5：総製品生産量又は総商品販売量

OP-5-1：環境配慮分の内訳

OP-5-2：製品・サービスのライフサイクルでの環境負荷の状況
及びその低減対策

24

(排出物・放出物)

OP-6：温室効果ガス等の大気への排出量及びその低減対策

OP-7：化学物質の排出量・移動量及びその低減対策

OP-8：廃棄物等総排出量及びその低減対策

OP-8-1：廃棄物最終処分量

OP-9：総排水量及びその低減対策

21

4. 「環境配慮と経営との関連状況」を表わす情報・指標（環境効率指標：E E I）

EI：経営指標とOPIを関連づけた指標

5. 「社会的取組の状況」を表す情報・指標

25

（社会パフォーマンス指標：S P I）

SP-1：労働安全衛生に関する情報

SP-2：人権及び雇用に係わる情報

SP-3：地域の文化の尊重及び保護等に係わる方針、計画、取組の概要

SP-4：環境関連以外の情報開示及び社会コミュニケーション

SP-5：広範な消費者保護及び製品安全

SP-6：政治及び倫理に係る情報

SP-7：個人情報保護に係る情報

表) 新ガイドラインと2003年版との比較表

新ガイドラインと環境配慮促進法及び2003年版との比較表

第4章 環境報告書の充実に向けた今後の課題

1. 環境報告書の記載内容の充実に向けた課題
2. 環境パフォーマンス指標の充実に向けた課題

【参考資料】

1. 事業者の自主的な環境保全活動の促進方策の概要
2. エコアクション21（環境活動評価プログラム）
-